
No.18

村雲

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

No. 18

【Nコード】

N1635K

【作者名】

村雲

【あらすじ】

笑ってくれるかい。

幼い道化の少しの本当。

大丈夫だよ

例えば

空が青いとか

星が綺麗だとか

肌が感じた温もりとか

人の為に流れる涙とか

全てが嘘だと言われても

最初から

僕が知れる本物なんて

ほんの僅かなものでしかないと思うんだ

君のことが好きだった

「またね」をいう瞬間に

心臓が萎縮していくのを感じた

心ってのが

心臓なんかじゃないことは

わかってたんだけど

この寒い季節に

心臓と悴んだ皮膚だけが

心の在処を知ってたみたいだ

本当はさ

「またね」の次なんて

来て欲しくなかったんだ

大丈夫だよ

その言葉の意味は

隠し持った鏡だけが知れるように

単純な台詞に施した少しの謎かけ

だからって

答えを教えるつもりなんて

これっぽっちもないよ

その理由だって君には知られたくない

大丈夫だよ、

僕は何も恐れてはいない

ひとつだけ

わからないんだ

あらゆる色彩を蔑ろにして

無様に積み上げられた体温が

この冷めた血の管に注がれる理、

それすらも神の諸行だと疑わない

骨と肉の塊が豪語する掃き溜めの口、

即ち冒涇の紅を塗りたぐった牙の鞘が

最後の一瞬に軽んじて云う

「さよなら」の合図が

何故、

こんなにも

僕の奥を劈くのだろう

意味もなく

すれ違い際のナイフにも気づかない、

それ程に幾度の夜は一瞬で

わかった頃には

僕の全部はぐちゃぐちゃになってるんだ

だからって

答えを教えるつもりなんて

これっぽっちもないよ

その理由だって君には知られたくない

大丈夫だよ、

本当に、

僕は

何も

恐れてはいない

例えば

夕闇の霞んだ橙色とか

屋上からみえる美しい景色とか

その度に刻まれた大切な思い出とか

君の為に流れる涙とか

何もかもだ

全ての表情の隣に君がいた

君のことが好きだった

「またね」をいう瞬間に

脳ミソが「嘘だ」と瞼に伝達を送った

心つてのが

言葉なんかじゃないことは

わかってたんだけど

この寒い季節に

頬の雫と震えて出したサヨナラだけが

心の在処を

知ってたみたいだ

「またね」

ほら、そして次が来る

大丈夫だよ

そうやって

僕は何度も嘘をつく。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1635k/>

No.18

2011年1月16日07時14分発行